

**2021(令和3)年度
大阪府内地域連携プラットフォーム
事業報告書**

(2021年4月～2022年3月)

2022(令和4)年3月

課題1 大学と高校の有機的な接続・連携の強化

月	会議	行事等
4		HP オープンキャンパス情報の常時掲載
6	第1回推進委 (11日)	共通大学案内ブックレットの作成・配布 (8万部)
8	第1回部会 (5日)	
9		大阪の大学「学び」WEB フェア開催 (HP)
10		第1回高大連携フォーラム (22日)
11	第3回推進委 (書面開催 24日～12月3日)	
2	第2回部会 (8日) 第3回部会 (書面開催 22日～3月1日)	
3		第2回高大連携フォーラム (9日)

(取組1) <高大連携・接続の検討>

【高大連携フォーラム】

事業概要・実施状況: https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/koudai_st/forum/

- ・大阪府内の高校、大学における喫緊の課題をテーマに取り上げ、情報共有や効果的な連携方法について模索する場として「高大連携フォーラム」を開催している。
- ・今年度は「これからのデジタル社会を生き抜く人材育成を見据えた『情報』入試」をテーマにシリーズ開催。

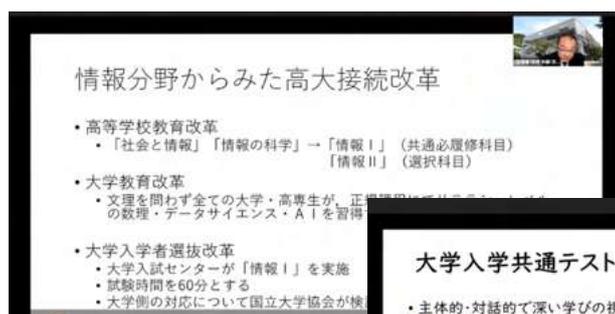
<<第1回>>

<p>テマ: 高大で考える「情報」入試～デジタル社会が求める IT 人材の育成</p> <p>開催日時: 2021年10月22日(金) 18:00～20:00</p> <p>講演: 「情報」入試で問われる「情報Ⅰ」の概要 鹿野 利春氏 (京都精華大学 メディア表現学部 教授/前文部科学省教科調査官 (高校情報科))</p> <p>事例発表: 「情報Ⅰ」の実施に向けた大阪府教育庁の取組みについて 田中 宏樹氏 (大阪府教育センター 教育企画部企画室 指導主事)</p> <p>ファシリテーター: 兼宗 進氏 (大阪電気通信大学 工学部長/メディアコミュニケーションセンター長)</p> <p>参加者数: 計133名 内訳: 大学66名 (うち会員37名)、高校47名、その他20名</p>

<<第2回>>

<p>テマ: 高大で考える「情報」入試～デジタル社会が求める IT 人材の育成 (シリーズ2)</p> <p>開催日時: 2022年3月9日(水) 18:00～20:00</p> <p>講演1: 「情報」入試スタート—これからどうなるのか、どう備えるのか 中野 淳氏 (日経BP コンシューマーメディアユニット長補佐)</p> <p>講演2: 大学入学共通テストと「情報Ⅰ」に対する大学の対応 中野 由章氏 (工学院大学附属中学校・高等学校 校長)</p> <p>ファシリテーター: 兼宗 進氏 (大阪電気通信大学 工学部長/メディアコミュニケーションセンター長)</p> <p>申込者数: 計126名 内訳: 大学58名、高校48名、その他20名 ※3/2時点</p>

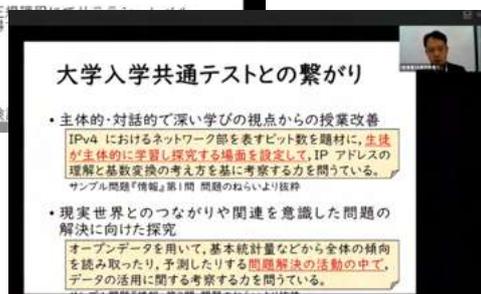
第1回フォーラムの様子



講演 鹿野氏



ファシリテーター 兼宗氏



事例発表 田中氏

(取組2) 情報発信

事業概要・実施状況 : <https://www.consortium-osaka.gr.jp/high/oc/>

- ・コロナ禍により、各大学での学生の募集活動が厳しさを増す中、プラットフォーム形成大学の魅力を広く発信するために「共通大学案内ブックレット」をさらに充実させ、学生が自大学の魅力を紹介する内容とした。大阪府教育委員会等の協力を得て、これから本格的に進学先を検討する高校2年生を対象に約8万部配布した。
- ・「大阪の大学『学び』WEB フェア」と称したプラットフォーム形成大学合同WEB説明会を企画し、当コンソーシアムホームページに特設ページを設置した。高校生や保護者の利便性を考え、絞り込み検索機能を備えた仕様としたしている。
- ・上記フェアページにおいて、高校生の進路検討にかかる動向把握と大学や大学コンソーシアム大阪が提供する情報等に関するニーズ調査を行い、その結果をプラットフォーム形成大学で有効活用してもらえよう共有した。
- ・ブックレット配布、WEB フェアの開催、ニーズ調査の実施については、私立大学等改革総合支援事業（タイプ3）の加点に向けた取組とも連動している。



大阪の大学「学び」WEB フェア 周知用ポスター



大阪の大学「学び」WEB フェア HP イメージ

課題2 単位互換プログラムの充実

事業概要・実施状況：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/univ/tg/>

月	会議	行事等
4		前期開講（センター1科目）
5	第1回推進委・単互実務委合同会議（21日）	
7	第1回部会（30日）	
8		追加募集科目 出願開始（25日）
9		集中科目開講（センター1科目） 後期開講（センター8科目）
10	第2回推進委・単互実務委合同会議（29日）	
11		
12	2022年度単位互換担当者説明会	
1		
2	第2回部会（9日） 第3回部会（書面開催24日～3月3日）	
3		2022年度単位互換科目 出願開始（22日）

（取組1）＜単位互換の充実＞

【センター科目】

- ・提供科目数は当初の登録段階で11科目。しかし、特に前期科目はコロナ禍の影響を大きく受け、3科目中1科目のみの開講となった。
- ・出願者数は471名と、科目定員に対する全体の充足率は昨年より11.5%アップし、83.4%となった。
- ・また8月に開講予定だった「植物園で学ぶ生態圏と文化」は対面からオンラインに切り替え、さらに開講を9月に延期するなど、担当大学（大阪市立大学）には柔軟に対応いただいた。
- ・後期科目は当初の予定どおりオンラインを中心に8科目開講した。

【オンキャンパス科目】

- ・科目登録数は344科目と昨年より微減。
- ・出願者数は167名、科目定員に対する全体の充足率は前年とほぼ同程度の5.2%となった。

科目カテゴリ		2020	2021	当年-前年	前年比
センター	科目数	11	11	0	100.0%
	出願校数	18	22	+4	122.2%
	出願者数	503	471	-32	93.6%
オンキャンパス	科目数	363	344	-19	94.8%
	出願校数	14	17	+3	121.4%
	出願者数	168	167	-1	99.4%

履修生募集ブックレット



(取組2) <プログラムの充実>

- ・課題7取組1「『AI リテラシー』をテーマとした講座」に後述

課題3 インターンシップの更なる充実と独自プログラムの開発

事業概要・実施状況：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/univ/intern/>

月	会議	行事等
4	第1回推進委 (27日)	
5		学生向け説明会 (12日・15日) 学生出願期間 (12日～28日)
6		面接・選考 (6日)
7		事前研修 (4日)
8	第1回部会 (3日) インターンシップ部会より改組 (23日)	実習期間 (～9月中旬まで)
9	第2回推進委 (6日)	事後研修・交流会 (26日)
10		舞洲プロジェクト (プロジェクト型スピンオフ) (9日～2022年2月13日)
12	第3回推進委 (1日) 第4回推進委 (書面開催9日～16日)	就活クエスト in OSAKA 2021 第1弾 (18日)
1	第2回部会 (24日)	就活クエスト in OSAKA 2021 第2弾 (23日)
2	第3回部会 (書面開催15日～22日)	
3		就活クエスト in OSAKA 2021 第3弾 (5日・8日)

※学生向け説明会、学生出願期間、面接・選考、事前研修、実習期間、事後研修・交流会の日程は、就業体験型とプロジェクト型は共通して実施。

(取組1) <就業体験型インターンシップ>

【就業体験型インターンシップ】

- ・出願者数154名中、実習者数は89名。
- ・既存の受入先や大阪府商工労働部等の協力を得て、計59件のエントリーがあった(推薦枠含む)。
- ・受入先は現在の社会情勢からコロナ前より大幅に減じているものの、多くの企業・団体で実地によるプログラムを実施いただくなど、学生の学びや体験の機会確保に努めた。

【オンラインプログラム(就活クエスト in OSAKA)】

- ・早くから実社会に触れることによる学修の深化や主体的な職業選択、また高い職業意識の涵養を目的としたオンラインプログラムを冬期より展開。
- ・『働く』を考える、「業界研究」などをテーマにした1～2日間のワークショップ形式で実施し、プログラムを通じて学生が大阪の産業構造を知り、府内の中小企業の魅力に触れる機会を提供する。

回・開催日	テーマ	参加者数
第1回 (12月18日)	大学職員の仕事	8大学13名
第2回 (1月23日)	これからの時代の働き方	7大学8名
第3回 (3月5日、8日)	大阪の企業活動	7大学16名

就業体験型インターンシップ
事後研修の様子



(取組2) <プロジェクト型インターンシップ>

【にしよどミライラボ構想プロジェクト】

- ・地域住民主体のまちづくりを目指す西淀川区において、若者の視点で若者のコミュニティへの参画を促す仕組みを考えるプログラムを実施した。
- ・西淀川区域を支援する区役所職員や区内で活動を行う各団体にインタビューを行いながら、学生ならではのアイデアを提案した。

テ ー マ：にしよどミライラボ構想プロジェクト（西淀川区役所留学 2021。）
日 時：2021年8月23日（月）～9月6日（月）全11日間
場 所：キャンパスポート大阪（インタビュー時はオンラインを併用）
協 力：大阪市西淀川区 総務課・地域支援課
ファシリテーター：NPO 法人 JAE
参加者数：7大学10名

にしよどミライラボ構想プロジェクト 実習の様子



【舞洲スポーツイノベーションプロジェクト（舞洲スポーツビジネスコンテストとの連携）】

- ・プロジェクト型インターンシップのスピノフとして試行。
- ・2021年10月～2022年2月にかけて、舞洲ビジネスコンテストに挑戦する長期インターンシップ。

日 時：2021年10月2日（土）～2022年2月26日（土）の約5か月間
場 所：キャンパスポート大阪（オンラインを併用）
協 力：舞洲プロジェクト、エヴェッサ大阪、大阪市
ファシリテーター：上原 光徳氏（株立成社 代表取締役）
参加者数：7大学10名

※別途、海外オンラインインターンシップ（英語の語学研修と海外の旅行会社での有料オンラインインターンシップ）を企画。最少催行人数に満たなかったため中止。



舞洲スポーツビジネスコンテスト
最終プレゼン会の様子



課題4 グローバル化に対応できる学生や教職員を目指すための機会の提供

月	会議	行事
5	第1回推進委(10日)	
6		学生英語プレゼンコンテスト発表者募集開始(7日～)
7	第1回部会(15日)	
8		第1回グローバル人材育成講座①②(25・27日)
9		第1回グローバル人材育成講座③④(1・3日) 学生英語プレゼンコンテスト運営メンバー募集開始
10	第2回推進委(27日)	
11	第3回推進委 (書面開催24日～12月3日)	学生英語プレゼンテーションコンテスト(28日)
1	第2回部会(31日)	
2	第3回部会(書面開催17日～24日)	第2回グローバル人材育成講座①(28日)
3		第2回グローバル人材育成講座②(1日)

(取組1) <他国・他地域との交流>

- ・2008年に台湾財団法人高等教育国際合作基金会(FICHET)と協定を締結し交流を進めてきたが、今般のコロナ禍によって交流が頓挫する状況が続いている。
- ・現状を受け、台北駐大阪経済文化弁事処を通じて先方の状況や今後の交流の意向について確認したところ、FICHETから教職員交流の一環でSD研修の共同開催(2023年度開催)にかかる素案が示された。
- ・これまでの学長間交流から教職員や学生へと幅を広げた交流へとシフトする意向は日台双方で合致していることから、次期中期計画の中でまずは交流のあり方から見直す予定としている。

(取組2) <グローバル人材育成事業>

事業概要・実施状況：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/univ/global/>

- ・SDGsの実践講座として、第1回には(公財)太平洋人材交流センターの講師紹介による4回連続講座、また第2回にはSDGsの解決策をレゴ®で表現するといったユニークな講座を開催した。

<<第1回>>

テーマ：SDGs実践講座 2030年の世界を目指して、「私たち」のアクションを考えよう
 日時：2021年8月25日(水)、27日(金)、9月1日(水)、3日(金)の計4日間
 講師：有岡 義洋氏(株)ジームス・アソシエイツ 代表取締役)
 参加者数：10大学20名

<<第2回>>

テーマ：より良い未来を形にする レゴシリラスプレイ®・メソッドでSDGsを探求しよう
 日時：2022年2月28日(月)、3月1日(火)計2日間
 講師：Mark SHEEHAN氏(阪南大学 国際コミュニケーション学部 教授)
 参加者数：9大学26名(うち留学生9名)



レゴシリラスプレイ®プログラムの様子



【学生英語プレゼンテーションコンテスト】

- ・高い国際意識やコミュニケーションスキルをもつ若者の育成に寄与することを目的に開催。
- ・昨年同様、発表者や関係者のみ参集する形として当日の様子を YouTube でライブ配信し、オンラインによる観覧が可能なように機会提供を行った。
- ・本コンテストは、留学生支援コンソーシアム大阪と連携し、同コンソーシアムが主催する留学生エキスポの「アフターイベント」として位置づけられた。また、(公財)中島記念国際交流財団から留学生地域交流事業として助成金 40 万円を得ている。

日 時：2021年11月28日（日）10：00～17：00

会 場：大阪科学技術センター

発表テーマ：アフターコロナをきっかけにSDGs達成を加速するため、コロナ禍で自身が直面した課題から想起し、大阪の学生が取り組み可能なSDGsに沿った社会課題の解決策を提案する。

発表者数：12チーム、8大学34名（うち留学生9名）

学生英語プレゼンテーションコンテストの様子



課題5 学生主体の地域連携促進による大阪の活性化

月	会議	行事等
4		地域連携 学生フォーラム 学生企画運営メンバー募集
5		フォーラム 学生企画運営メンバー キックオフミーティング
6	第1回推進委員会(9日)	「大学で学ぶ夏休み in Osaka 2021」周知ポスター配布
7	第1回部会(19日)	
8		地域連携 学生フォーラム 発表者募集締切
10		地域連携 学生フォーラム 事前交流会(11日) 地域連携 学生フォーラム(17日) 「高校生の『学び』応援プロジェクト」HP掲載
11	第2回推進委員会(25日)	
12		地域連携 情報交換会(14日)
1	第2回部会(20日)	「高校生の『学び』応援プロジェクト」周知ポスター配布
2	第3回部会(書面開催17日~24日)	「地域連携 学生フォーラム in 大阪 スピンオフ企画」 インカレ課題解決 ワークショップ(12日)

(取組1) <地方自治体からの受託事業>

- ・取組2「地域連携情報交換会」に連動

(取組2) <地域連携事業>

【地域連携 学生フォーラム in 大阪】

事業概要・実施状況: <https://www.consortium-osaka.gr.jp/univ/gakusei-frm/>

(1) 学生フォーラム

- ・プラットフォーム形成大学の学生自らが取り組む地域活動(ゼミ活動やボランティア等)について発表し、交流を深めることを目的としたフォーラムを継続開催している。
- ・昨年度はコロナ禍の影響によりやむなく中止となったが、今年度は発表者と関係者のみに参加を限定して開催し、同時にYouTubeによるライブ配信を行った。
- ・今年度はコロナ前と同程度のエントリー数にまで伸び、計13事業の参加があった。

<p>テーマ: 繋がる広がる変化する~コロナを原動力に前進していく地域~ 日時: 2021年10月17日(日) 10:00~17:00 会場: グランフロント大阪 カンファレンスルーム タワーC01、C02 発表学生数: 7大学1団体 49名(発表数 13事業) 学生運営メンバー参画数: 6大学9名 YouTube観覧者: 92名 YouTube視聴回数: 午前の部 245回再生・午後の部 123回再生 ※閲覧状況: 11月2日現在</p>
--

(2) スピンオフ企画 インカレ課題解決ワークショップ

- ・学生フォーラムのスピンオフ企画として、自治体の抱える課題に対し学生が協働して解決策を提案する1日完結型のワークショップを初開催した。
- ・コーディネーターには荻田地域連携部会長、久地域連携部会推進委員長、また自治体登壇者として茨木市、寝屋川市の2市に協力を得た。

<p>テーマ: 大阪の地域の課題解決 日時: 2022年2月12日(土) 13:00~17:30 会場: オンライン(ZOOM) 参加者数: 計9大学52名(プラットフォーム形成大学 6大学49名、左記以外 3大学3名) コーディネーター: 荻田 喜代一氏(摂南大学 学長、大学コンソーシアム大阪 地域連携部会長) 久 隆浩氏(近畿大学 総合社会学部 教授、地域連携部会 推進委員長) 協力先: 中野 翔大氏(寝屋川市 経営企画部 企画二課 副係長) 正木 友希氏(茨木市 都市整備部 北部整備推進課 地域づくりグループ長) 三好 正祐氏(茨木市 企画財政部 政策企画課 課長代理) 佐藤 瑛氏(茨木市 企画財政部 政策企画課 行政経営係)</p>

【地域連携 情報交流会】

事業概要・実施状況：https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/cooperation/info_meeting/

- ・当初、大学と自治体における地域連携担当者間の情報交換を目的にエリア毎の開催を予定していたが一般の情勢を受け、今年度はコロナ禍の産官学の好事例を共有する機会として、フォーラム形式で以下のとおりオンラインにて開催した。

テ ー マ：新しい地域連携の取り組みと今後に向けて
—コロナ禍から得た知恵と工夫を今後に生かすために—
開催日時：2021年12月14日（火）14：00～16：30
発 表 者：池田 千恵子氏（大阪成蹊大学 産官学連携センター長・教育研究支援本部 本部長・経営学部 准教授）
木曾 稔之氏（KoTo サウンド 合同会社 代表）
近藤 高史氏（大阪市港区役所 産業振興担当課長）
コーディネーター：久 隆浩氏（近畿大学 総合社会学部 教授）
参加者数：計 33 名 内訳：大学 20 名、自治体 8 名、企業団体 5 名



地域連携情報交流会チラシ



地域連携情報交流会の様子

【その他】

(1) 大学で学ぶ夏休み in Osaka 2021

- ・コロナ禍により、「大阪中高生サマー・セミナー」に代わる暫定的な取り組みとして、各大学で夏休み期間中に実施される中高生向けプログラムの情報収集を行い、大阪府教育委員会等を通じて、中学や高校へ周知ポスターを配布した。（配布先：中学校=551校、高校=299校）
- ・なお、講座情報は当コンソーシアムのホームページに掲載し、10大学より50講座の情報提供があった。

(2) 高校生の「学び」応援プロジェクト

- ・当コンソーシアムの特設ホームページにプラットフォーム形成大学の模擬授業等の動画コンテンツを掲載し、高校生が大阪の大学の学びを身近に感じながらその魅力に触れる企画として標記プロジェクトを試行した。
- ・今年度は20大学の動画を掲載した。

課題6 学生ボランティア事業の充実

(取組1) <国際イベントへの学生参加の検討>

- ・学生のボランティア意識の醸成を図るため、まずは学生が集って交流や活動ができる場として「オンラインプラットフォーム」を構築し学生ボランティアグループ「ACT」を発足した。
- ・コロナ禍においても学生が主体的に活躍できる場を創出するため、オンラインによる学生ボランティアプラットフォームを構築した。
学生生活に一定の制限を強いられる同じ学生同士が交流できる場としての座談会や、コロナ禍で学ぶ高校生に向けて、大学生活のリアルを紹介するオンラインオープンキャンパスなど、学生が主体的に企画・運営し、いずれも好評価を得られた。

(取組2) <観光・集客にかかる学生参加の検討>

- ・大阪・関西万博が目前に迫る中、観光をテーマとしたイノベーション人材育成拠点である「MUIC Kansai」に大阪市経済戦略局とともに協働による人材育成の可能性を探るため、ヒアリングを行い、留学生の支援を含む連携の可能性を見出すことができた。

課題7 社会との多様な接点の創出によるアクティブ・ラーニングの充実

(取組1) <学生による企画・運営事業の創出>

【AI 講座の実施】

- ・AI 講座を継続して開催し、今回は単位互換科目化を見据えて15回講義の導入部分（第1、2回目）と位置付けることを想定したプログラムを試行した。
- ・プログラム開発にあたっては、3名の専門家によるミニ講義や、グループワークを通じて参加者間の意見交換を行うなど、自発的な学びとしてもらうよう配慮した。結果、アンケートからは「AIのイメージが変化した」と回答した受講者が85%に上り、AIをより身近に感じながらその付き合い方について学ぶといった開催趣旨に合致する成果が得られた。

日	時	：2021年6月13日（土）13：30～16：40
場	所	：オンライン（ZOOM）
講	師	：山元 翔 氏（近畿大学 工学部 情報学科 講師） 林 勲 氏（関西大学 総合情報学部 教授） 中川 賀史 氏（（公財）大阪産業局 イノベーション推進部 プロジェクトアドバイザー）
共	催	：大阪イノベーションハブ（OIH）
受講者数		：31名 ※大学教職員の聴講者を含む

【起業インターンシップ】

「起業」という新たな視点から「働く」ことを考える機会を提供すべく、大阪イノベーションハブと協働してプログラム開発を行った。今回は学生起業家、社内起業家等より身近な例をあげ、ビジネスアイデアソンを開催。

日	時	：2022年3月12日（土）・13日（日）の2日間
場	所	：キャンパスポート大阪
講	師	：菅原 俊子 氏（株式会社ハート・オーガナイゼーション 代表取締役） 及部 一堯 氏（NTT 西日本イノベーション戦略室 シニアマネージャー、 株式会社パラレルパートナーズ 代表取締役） 阪井 海歩 氏（D harbor 株式会社）
共	催	：大阪イノベーションハブ（OIH）
申込者数		：6大学24名（※3/2時点）

(取組2) <学生による成果発表の場の創出>

- ・課題6取組1とも連動し、起業インターンシップにてビジネスアイデアソンを実施し、成果発表会を開催し、検証予定。

課題8 内なる国際化の推進

(取組1) <留学生の環境整備>

- ・詳細は課題4取組2「学生英語プレゼンテーションコンテスト」と連動。
- ・コロナ禍の影響により留学生においては国内学生との交流が一層難しい状況にある中、本コンテストや参加者間の意見交換の場を通じて交流機会を提供できたことは留学生支援の観点においても大きな意義があった。
- ・コンテストの開催にあたり JASSO 助成金の獲得や、本コンテストが留学生支援コンソーシアム大阪の「留学生ウィーク」のアフターイベントに位置付けられるなど、大阪地域における留学生支援活動の本格化に向けて強い後押しが得られた。

課題9 SD研修の更なる充実

月	会議	行事
4	第1回推進委 (23日)	
7	第2回推進委 (21日)	初任者SD研修 (第1回) (30日)
8	第1回部会 (3日)	
10		初任者SD研修 (第2回) (7日) サロン (第1回) (21日)
11		初任者SD研修 (第3回) (17日) サロン (第2回) (22日)
12		サロン (第3回) (9日)
1	第3回推進委 (12日)	
2	第2回部会 (3日) 第3回部会 (書面会議 22日~28日)	
3		ID研修 (3日)

(取組1) <SD研修の戦略的な実施>

【各種研修】※いずれも講師は研修部会推進委員が担当

事業概要・実施状況：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd/schedule/>

(1) 初任者SD研修

大学職員としての基礎知識（法令基礎、高等教育の現状把握等）を学び、実際の現場で生かすことができる力を身につけることを目的に、講義形式の研修を3回にわたって開催。

(2) 大学職員研修を実施するためのインストラクショナルデザイン（ID）研修

教育活動の効果・効率・魅力を高めるための理論・モデル・技法の集大成であるインストラクショナルデザインの基礎の習得と、研修を企画し実施する中で、それらをどのように活用できるかを実際の研修計画を題材に考える内容で実施した。

回・開催日	テーマ	参加者内訳
初任者SD研修 第1回 (7月30日)	大学職員の心得を知り、視野を広げる	19 大学 47名 (うち会員外3 大学4名)
初任者SD研修 第2回 (10月7日)	3つのポリシーと質保証	13 大学 29名 (うち会員外3 大学3名)
初任者SD研修 第3回 (11月17日)	自分の大学を知ろう！	7 大学 14名 (うち会員外1 大学1名)
ID研修 (3月3日)	大学職員研修を実施するための インストラクショナルデザイン (ID) 研修	11 大学 15名 (うち会員外2 大学2名)

【Salon De 大学コンソーシアム大阪 (SD 勉強会)】

事業概要・実施状況：<https://www.consortium-osaka.gr.jp/staff/sd/salon/>

今年度は「学生支援」をテーマに掲げ、以下のとおり開催した。

回・開催日	テーマ・講師	参加者内訳
第1回 (10月21日)	「支援が必要な学生について共に考える ～学生相談室の事例をもとに～」 西田 裕子 氏 (大阪医科薬科大学 相談室カウンセラー 臨床心理士)	10 大学 25 名 (うち会員外 1 大学 1 名)
第2回 (11月22日)	「学生のウェルビーイングとモチベーションを高める教育・支援について ～学生エンゲージメントの観点から～」 山田 剛史 氏 (関西大学 教育推進部 教授)	10 大学 21 名 (うち会員外 3 大学 3 名)
第3回 (12月9日)	「これからの学習支援を考える ～アカデミック・アドバイジングの観点から～」 清水 栄子 氏 (追手門学院大学 基盤教育機構/教育開発センター准教授 大学コンソーシアム大阪 研修部会推進委員)	8 大学 25 名 (うち会員外 2 大学 3 名)

初任者 SD 研修 チラシ (第1回)



サロン チラシ (第3回)



【全国大学コンソーシアム研究交流フォーラムでの事例発表】

9月11日開催の標記フォーラムで開催された分科会において、宮原副委員長（大阪学院大学 大学事務長代理）により大学コンソーシアム大阪の研修事業にかかる取組について事例発表が行われた。

▽第1分科会



課題 10 その他

月	会議	行事
6	第 1 回協議会 (21 日)	AI 講座 (13 日)
7	第 1 回分科会 1 (30 日)	
8	第 2 回分科会 1 (27 日)	
9	第 3 回分科会 1 (10 日)	
10	第 4 回分科会 1 (8 日)	SD 研修 (15 日) 第 1 回公開講座 (21 日) 第 2 回公開講座 (23 日) 活動報告会 (25 日)
11		タイプ 3 申請 (30 日までに)
3	第 5 回分科会 1 (11 日)	

【分科会 1 の設置】

- ・ 2021 年 5 月に開催した「第 15 回通常総会」において、今年度も私立大学等改革総合支援事業（タイプ 3・プラットフォーム型）に申請することが全会一致で承認された。これを受けて大阪府内地域連携プラットフォーム協議会のもとにタイプ 3 申請に関する検討等を行う「分科会 1」を設置し、加点に向けた取組を進めた。

【主催事業の開催】

- ・ 今年度は、公開講座では就職困難層（発達障がいや発達グレー層）の学生の就職支援やコロナ対策、SD 研修においては「ICT を用いた同時方向型の遠隔授業」といった、いま直面する課題を取り上げ展開した。
- ・ また当プラットフォームの活動を広く知ってもらう機会として活動報告会を開催した。

【新入生対象薬物意識調査の実施】

- ・ 近年、スマートフォンの急速な普及に伴い、インターネットや SNS を通じて大学生が違法薬物に接しやすい状況が生じている。大学の使命として学生に健康で充実した大学生活を保障するとともに、安全で安心な社会の実現のために、複数大学が連携して社会的意義のある啓発活動に取り組むため、プラットフォーム形成大学の新入生を対象とした薬物乱用防止に関するアンケート調査を実施した。

調査報告書：[【報告書】大学コンソーシアム大阪 令和 3 年度新入生対象薬物に関する意識調査.pdf](#)

【共同 IR の実施】

- ・ 上記の新入生対象薬物意識調査では 25 大学 12,425 人が回答し、この結果に基づく IR をプラットフォーム協議会分科会 1 にて実施し、公表した。
- ・ 今回初めて実施した調査・分析により、若者と薬物の距離が非常に近く、使用を現認したケースがあるなど、深刻な状況であることが把握できた。
- ・ この現状をプラットフォーム形成大学と共有しながら、各大学の取り組みに生かしてもらうとともに、今後の薬物乱用防止にかかる協働の啓発活動へとつなげていきたい。

【リカレントプログラムの実施】

- ・ (株)アカデミック・レボの協力により、社会人を対象としたマイクロソフトオフィススペシャリスト (MOS) 資格の取得講座を企画・実施した。
- ・ 社会人が受講しやすいオンデマンド形式のプログラムを提供し、定員 10 名のところ、募集開始早々に定員を充足するなど、ニーズに即した展開ができた。
- ・ また周知にあたっては大阪商工会議所の協力を得られたことも意義深い。

【全国大学コンソーシアム研究交流フォーラム】

- ・全国大学コンソーシアム協議会、大学コンソーシアム大阪、大学コンソーシアム京都との共催で標記フォーラムを開催した。
- ・2020年度はコロナ禍の影響により実地開催を予定するも中止となり、今年度もその影響が色濃いためオンラインによる開催に切り替え準備を進めた。
- ・協議会においてもオンライン初開催とあって集客に懸念があったものの、当日は全国より476名の参加者を得て、基調講演やシンポジウム、ポスターセッション、分科会などの様々な企画を行い、成功裏に終了した。

開催日時：2021年9月11日（土）10：00～15：30

会 場：オンライン（Zoomによる）

テ ー マ：大学コンソーシアムの再考と再興
～ニューノーマル時代に大学コンソーシアムが切り拓く可能性とは～

参加者数：計476名

第1部 <基調講演・シンポジウム> 179名

- ・基調講演「マネジメント改革による大学運営の再考と再興」
大石 利光 氏（学校法人大阪電気通信大学 理事長・学長）
- ・シンポジウム「産・官・学におけるそれぞれの連携取組の現状と今後求められること」
<シンポジスト>
大石 利光 氏（上掲のとおり）
矢田 昌己 氏（大阪府政策企画部企画室推進課 課長）
東 潤一 氏（大阪商工会議所 産業部 ライフサイエンス・スポーツ産業推進担当課長）
<コーディネーター>
久 隆浩 氏（近畿大学 総合社会学部 教授）

第2部 <ポスターセッション> 100名

<分科会>

- 第1分科会（FD・SD研修）38名
- 第2分科会（インターンシップ）18名
- 第3分科会（キャリア教育）24名
- 第4分科会（大学コンソーシアム運営）54名

【日本インターンシップ学会関西支部研究会の共催】

- ・岐阜のNPO法人G-net や和歌山大学の地域に根差したインターンシップ活動の好事例を共有・広く発信することができた。